

CONTENTS 目次

- 2 特集 DX で目指す。デジタルバリアフリーのまち やいた
- 8 まちの話題
- 10 まちの話題 矢板高校特別編
- 12 市からのお知らせ
- 28 情報掲示板
- 30 施設からのお知らせ
- 32 広報クイズ&アンケート

COVER 表紙の写真



表紙の写真は、HCCソフト（株）のセミナールームで子どもたちがプログラミング活動を行ったときの様子です。この日は、アニメーションやロボットのプログラミングを体験した後、ドローンの操縦に挑戦しました。操作に苦戦していたのもつかの間、みるみるうちに上達し、時間を忘れて楽しんでいました。

POPULATION 人口(2月1日現在)

30,901人 (△45)	出生 6人
男 15,401人 (△19)	死亡 38人
女 15,500人 (△26)	転入 52人
13,276世帯 (△16)	転出 65人
()内は1月1日との比較	※住民基本台帳をもとに算出 △は減

特集 デジタルトランスフォーメーション

DX で目指す。



デジタルバリアフリーのまち

やいた

Digital Transformation

IoT (Internet of Things) 時代へ向けて足りないもの

近年、デジタル技術を活用したサービスは、急速なスピードで進展しています。平成22年に約10%だったスマートフォンの世帯保有率は、令和2年には80%を超えた第4世代移動通信システム（4G）の開始による通信速度の高速化と併せて、大容量のコンテンツの利用が可能となりました。また、第5世代移動通信システム（5G）は、通信インフラの超高速化・大容量化をさらに促進しあらゆるものがインターネットに接続するIoT時代をもたらすと予想されます。

一方、新型コロナウイルス感染症の拡大によって人々の生活様式が大きく変化する中、行政手続きは、いまだ所管する行政機関の窓口に出向く必要があったり、申請内容や保有するさまざまな情報は制度上、行政機関が横断的に共有できなかったりと、行政のデジタル化に対する課題が明らかとなりました。

これらに対応するため、市民に対して身近な行政を担う私たち地方公共団体は、持続可能で効率的な行政運営と、安心・安全を前提とした「人にやさしいデジタル化」を実現するデジタル変革が必要とされています。

県内初、「デジタルバリアフリー宣言」

このような状況を受け本市では、デジタル変革による急速な変化に柔軟に対応するため、令和4年11月に「矢板市デジタル戦略」を施行し、令和5年1月には県内初となる「デジタルバリアフリー宣言」を行いました。デジタル戦略の目的は一言で表すなら「市民生活の向上」。高齢者や障がいを持つ方も取り残されることなく、また、若い世代にとってますます便利に、全ての市民の皆さんにデジタルの恩恵を受けられる社会をつくっていきます。





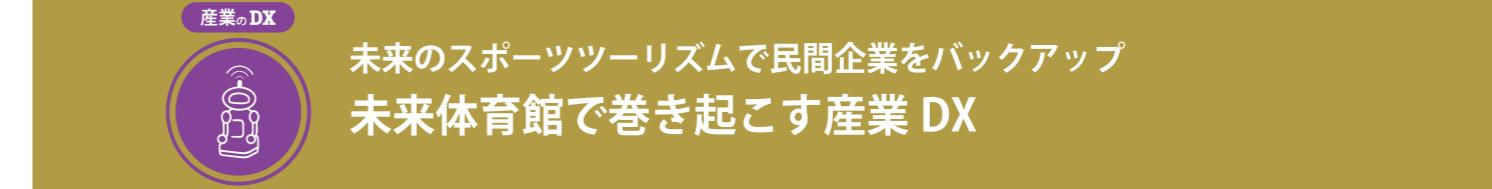
できることからスマールスタート！

デジタル化を伴う、新しい改革を「DX（デジタルトランスフォーメーション）」といいます。本市では、当戦略を達成するため、「産業」「行政」「学び」「暮らし」の4つの分野に分け、DX個別戦略を進めます。

「スマールスタートが大切」そう話すのは、本市の地域活性化起業人で、CIO（情報統括責任者）補佐官を務める秋本さんです。あらゆるジャンルで一斉に改革するのではなく、小さなことから、またはできることから無理をせずに進めることができが成功のカギです。これは、行政にも市民の皆さんにも言えることです。

本市では皆さんのニーズを探りながら、それに応えることで、真の「デジタルバリアフリーのまち やいた」を目指したいと考えています。

今号では、4つの分野で具体的にどんなことをするのか、一例を紹介します。これらを通じて、「皆さんの役に立つDXは何か」、皆さんが「今、必要としていることは何か」「やりたいことは何か」「できることは何か」を一緒に考えてみませんか。



建設中の（仮称）矢板市文化スポーツ複合施設（未来体育館）では、健康づくりやスポーツ能力を高めるためのデータ集約・分析・利活用を目的に、最先端の技術を導入し、関連企業の進出を促します。

現時点で検討している未来技術の一例を紹介します。

● AI (Artificial Intelligence: 人工知能) カメラ

カメラを設置して、例えば背番号などから選手を特定し、その選手の動きを追従して、AIによる分析を行うといった活用方法を考えています。将来的にはリアンビレッジ矢板（とちぎフットボールセンター）との連携を視野に入れています。



●まずはマイナンバーカードを準備！

本市では、政府が運営するオンラインサービス「マイナポータル」などを活用し、現在18種類のオンライン申請が可能です。マイナポータルで電子申請を行うには、マイナンバーカードが必要となります。令和5年1月末時点での本市のマイナンバーカード交付率は63.2%で、県内1位、全国平均を3.1ポイント上回っている状況です。引き続きマイナンバーカード未取得の方は、申請・取得いただくようお願いします。



【主なオンライン申請が可能となる手続き】

- ・転出届
- ・転入予約
- ・児童手当等の現況届
- ・保育施設等の利用申込
- ・保育施設等の現況届
- ・要介護・要支援認定（新規・更新）の申請
- ・受給資格者の申出による学校給食等の徴収等の申出 など

オンライン申請はこちらから





義務教育から生涯学習まで 世代に合わせた「学び」を提供

●公立学校情報化ランキング関東2位！

本市のGIGAスクール構想は、国が本格的に始動する前から先進的に取り組んできましたこともあり、全国でもいち早く児童生徒に1人1台タブレット端末を配置しました。この取り組みは、令和5年1月、日経BP発行「教育とICT no.23」において、文科省の調査等に基づいた「公立学校情報化ランキング2021年度」の関東地区部門で、矢板市立小学校は2位、中学校は9位という結果に結びつきました。これは、充実したICT環境を子どもたちの学習の質の向上につなげ、ソフト面の充実やデータの活用を行っていることを示しています。

●親子で学ぶ！プログラミング教室

プログラミング教育は、令和2年度から小学校で必修科目となりました。市では、保護者世代にとって未経験の学びを子どもと一緒に体験できる親子プログラミング教室を開催しています。小学校1・2年生を対象とした今年度の募集はすでに締め切っていますが、定員をはるかに上回るたくさんの応募があり、来年度も引き続き定員を増やして開催する予定です。



●高齢者でも大丈夫！やさしいスマート教室

「難しくない！楽しく覚える！いろいろ試したくなる！」をテーマに高齢者向けスマート教室を開催しています。この講座では、講師をサポートする市民スタッフを配置し、地域デジタルリーダーの育成も行います。参加した市民スタッフは、来年度講師として、また地域のデジタル相談役を担う人材として活躍します。

講座内容	日時・場所		
	矢板公民館	泉公民館	片岡公民館
基礎編①	3月16日（木） 10:00～11:30	3月10日（金） 14:00～15:30	3月14日（火） 10:00～11:30
基礎編②	3月28日（火） 14:00～15:30	3月24日（金） 14:00～15:30	3月30日（木） 14:00～15:30



申込フォーム

【スマート教室】

- ・スマートは娘に持たされているだけで、ほとんどの機能を使っていませんでした。講座を受けて、便利なアプリを知ることができ、勉強になりました。今日から少しづつ使ってみます。(70代)
- ・セキュリティについて疑問を持っていました。説明を受けることで理解を深めることができました。(50代)
- ・写真・動画のデータ整理ができず困っていました。今後はクラウドやアプリをうまく活用していきます。(40代)

●オーダーメイドできます「デジタル市民講座」

各種団体・個人の要望に合わせた講座も開催しています。お気軽にお問い合わせください。

【開催事例】

- ・婦人会LINE講座
- ・AKICHI子ども向けプログラミング教室
- ・観光コンシェルジュDX活用研修など

問い合わせ／デジタル戦略課 ☎ (43) 1170

私たち、さくら市を拠点にソフト開発をしている会社で、令和3年、旧西小学校跡地に研究開発センターを開設しました。IT技術は、これから社会において「人間」がより人間らしく生きるために、IT技術を通じて、人に社会手段としてどんどん進化していきます。私たちは、人の関わりを大切にし、IT技術を通して、やさしい会社でありたいと思っています。今回お話をいただいた親子プログラミング教室の講師を通じて、地域のおもしろさを共有できることを楽しみにしています。

HCCソフト(株) 代表取締役
親子プログラミング教室講師

大川 裕章さん



「誰に聞いたらいいかわからない」を解決！ 広報やいた新コーナー『デジタル保健室』

令和5年度からの広報紙面を活用して、新コーナー「デジタル保健室」を始めます。市民の皆さんからの「疑問があるけど、誰に聞いたらいいかわからない」といったデジタルに関するお悩みを解決していきます。

【質問の例】

- ・「ガラケー（フィーチャーフォン）が使えなくなるって聞いたんですけど、本当？」
- ・「マイナンバーカードを作るのは少し怖い。セキュリティは大丈夫？」

さまざまなDXを推進していく中で、市民の皆さんの素朴な疑問は、私たちにとって大きなヒントになります。ささいなことでも大丈夫です。皆さんの投稿をお待ちしています。



- ・「SNSはいじめや犯罪に悪用されたりと、子どもにSNSを使わせることに抵抗があります。どうすればいいですか？」



矢板市CIO補佐官
兼 地域活性化起業人
秋本 一樹さん

ますます便利で楽しいまちに

矢板市は今回、県内初となる「デジタルバリアフリー宣言」をしました。これは、矢板市が「デジタル化を通じて市民に役に立つことをしていくんだ」と覚悟を決めたということです。私もその想いに応え、カタチにするため、全力で矢板市のDXに取り組みたいと考えています。世代によって変わるべきを的確にキヤッチし、市民一人ひとりに、デジタルの恩恵を受ける豊かな暮らしを提供できればと考えています。そして、その先にあるIoT時代では、まち・ひと・しごとが隔たりなくつながり、市民にやさしいデジタル社会を実現します。私たちは、ますます便利で楽しい「デジタルバリアフリーのまち やいた」を皆さんとともに作り上げます。

子どものためのプログラミング道場

『CoderDojo（コーダー道場）さくら』

「CoderDojo」は、7歳から17歳の子どもを対象としたプログラミング道場です。2011年にアイルランドで始まり、現在は世界100カ国・2,000以上、日本国内では200以上の道場があり、大川さんが道場主を務める「CoderDojoさくら」もその一つです。

「CoderDojo」は、「無料」「ボランティア主導」「コミュニティベース」で運営されており、気軽に、クリエイティブに、みんなと交流しながら活動します。コードのことを学習したり、自分のウェブサイトを構築したり、好きなアプリやゲームを作ったり、興味のある技術を調べたり…

子どもたち一人ひとりの自主性・創造性を大切にしてプログラミングの楽しさを子どもたちや保護者の皆さんと共に共有し、ともに楽しみながら成長できる場所です。



【第52回】

日時／3月19日（日）

10:00～12:00

会場／HCCソフト（株）研究開発センター
(旧西小学校跡地)

参加費／無料

対象／小学生から高校生までのプログラミングに興味がある方

持ち物／ノートパソコン（1人1台持参）